

【基本理念】

私たち職員は、県営医療の根幹である「県民に平等な医療の恩恵を」の精神を受け継ぎ、患者さんに「誠実と医学で支える良質な医療」を提供し、地域の人々に愛される病院づくりを進めます。

年頭所感

院長 川村 秀司

皆様、新年明けましておめでとうございます。今年度の胆江圏域の年末年始は例年より暖かく、大雪にもならず穏やかな感じを受けました。それぞれの家庭ではどのように過ごされましたでしょうか。年末の当院はコロナ関係の発熱患者の来院が多く入院も若干ありましたが、年始に関しては打って変わり、かなり少ない状況でした。しかしながら、県内に関しては未だ新型コロナウイルス感染症の収束の目途は立たず各病院内でのクラスター報告が散見されます。そのような中、当院に関しましては未だ院内クラスターが発生することなく経過しておりますこと非常に心強く、感染対策にご尽力頂いた皆様には心より感謝を申し上げます。

さて、年末にも申し上げましたが、今の政治・経済は揺れ動いており、物価高騰をはじめ今後更に我々の生活に影響を及ぼすことが想定されます。まずは自らの身体・生活を整えておくこと、これからの世の中何が起るか分らない状況であることから万が一のことを想定して生活することをお勧めします。国力の低下で年始早々前途多難な感じを受けますが、年末の「NHK紅白歌合戦」に桑田佳祐、佐野元春、世良公則、Char、野口五郎が“時代遅れのRock'n'Roll Band”という曲を披露、歌詞の内容・歌っている姿を拝聴し、私が中学～高校～大学と活躍した方々が“おじさん”になっても生き生きと活躍している姿は我々に勇気と希望を与えてくれるものでした。目の前の出来事に柔軟に対応することがこれからの生きることや仕事に必要なことになりましょう。

9月には病院機能評価の受審が控えていますが、評価項目をみますと全て病院としてやっておかねばならないこと、実施されて当然の内容です。もし不備な点があるのならば少しずつ日々改善して頂けたらと思います。更には2024年度からは医師の働き方改革、そして診療報酬・介護報酬の同時改訂が施行されます。いよいよ高齢社会に向けた対策が本格化します。人員不足の中ではありますが、皆様の知恵をお借りし、医療・介護資源を大切に保ちながら与えられた任務を遂行していきたいと思っております。

この1年皆様と共に地域密着型病院の使命を果たすべく、これからも引き続き宜しく願いいたします。皆様のご健勝を祈願し年頭のあいさつといたします。





これって なんだろう？

江刺病院臨床検査技術科

超音波検査について

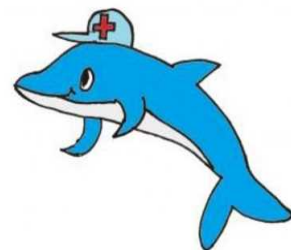
超音波とは

人間の耳で聞き取ることのできる音域は、約20～20,000Hzとされています。

（例えばNHKラジオの時報音「ピッピッピポーン」の周波数は440Hzと880Hz）
これより高い周波数の音を超音波と呼んでいます。

診断用医用超音波では1～20MHz（メガヘルツ）（1メガは10の6乗）を使用しています。

※人体に照射しても無害とされています。

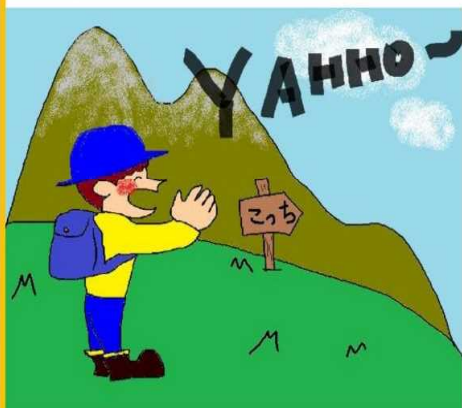


超音波と動物

超音波を利用して生活する生物でよく知られているのがコウモリやイルカ、クジラなどです。これら生物はエコーロケーションや会話などの目的に超音波を利用していると考えられています。

超音波（エコー）検査とは

エコーとは、「こだま・やまびこ」のことです。我々はヤッホーと発した音がやまびことして返ってくるまでの時間で対面する山までの距離を推測することができます。



超音波ビームを体(対象の臓器)にあてて反射してきた超音波を解析し白黒の画像をつくります。その画像より超音波上の診断をする検査です。骨やガス（消化管ガスなど）があると、見えにくいことがあります。

この検査は体への負担が少ないので、多くの臓器を様々な角度から観察できます。動的な観察をリアルタイムに行うことで、様々な病気の発見に役立てられるというメリットがあります。

超音波検査の種類

超音波検査は様々な部位にわたり使用されています。その一例として
腹部超音波検査、心臓超音波検査、頸動脈超音波検査、甲状腺超音波検査、乳腺超音波検査、末梢（上下肢）血管超音波検査、腎動脈超音波検査、体表超音波検査…などがあります

腹部超音波検査でわかること



- 臓器の性状・サイズ・位置
- 臓器内部や外部の占拠性病変の有無
- 体腔内の液体成分の有無（胸水・腹水など）

●おもに観察する臓器

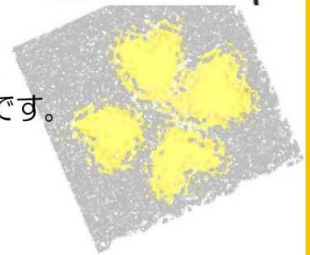
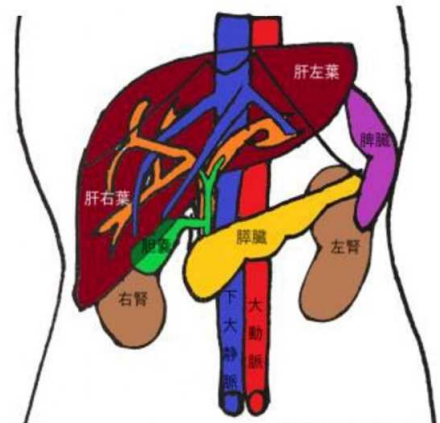
肝臓 胆嚢 胆管 膵臓 脾臓 腎臓

よくみられる腹部超音波検査の所見

脂肪肝

脂肪肝の原因としては、大きくアルコール性のものと非アルコール性のものに大別されます。近年、非アルコール性脂肪性肝疾患が増加しています。この中に、非アルコール性脂肪性肝炎もあり、進行すると肝硬変や肝がんに至ります。

脂肪性肝疾患とは肝細胞に中性脂肪が沈着して肝障害をきたす疾患です。肥満、糖尿病、脂質異常症、高血圧、高尿酸血症などがリスクファクターです。遺伝的素因もありますが、食べすぎや運動不足には注意したいものです。



嚢胞（のう胞）

嚢胞とは、液体の溜まった球状の袋のことです。無症状、無害、病的意義のないものが殆どです。嚢胞は先天性のものと、加齢に伴い膵臓・腎臓・肝臓などに生じるものがあります。肝臓と腎臓で嚢胞の所見がある場合、年1回の経過観察を行います。年々膨らんだり、数が増えたりして行く場合には臓器に悪影響が出る危険性があります。膵臓に嚢胞が見られた場合には、精密検査を受ける必要があります。嚢胞のなかに腫瘤ができるケースもあります。

胆のうポリープ

コレステロールの塊が胆のうにくっついているものが殆どです。急速に増大するものや、1cmを超えるものは、がんや腺腫の可能性があるので精密検査をお勧めします。

肝血管腫

血管腫は、細い血管が絡み合ったもので、良性の腫瘍です。経過観察が一般的ですが、まれに他の腫瘍と区別できない時は、精密検査が必要です。



～あゆみ保育所～ HAPPY HALLOWEEN

新型コロナウイルス感染症の影響で各イベントの中止・延期が続くなか、あゆみ保育所の2大行事である「ハロウィン」が10月28日(金)に開催されました。

様々な仮装に身を包んだ園児と先生は、保育所を出発した後、病院の待合ホールに到着。先生のピアノに合わせてお歌を歌い、演劇「大きなカブ」を披露しました。

病院職員の助けも借りてカブが無事に抜けると、周りからは大きな歓声が上がりました。



大きなカブが育ち
ますように・・・



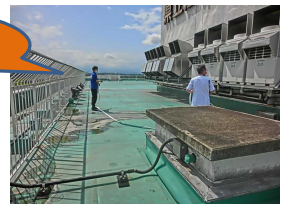
どうぞ！

ありがとう//

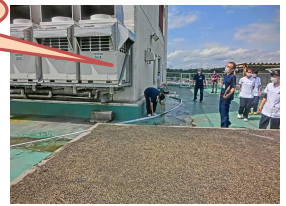


防火訓練

放水準備よし！



ホースねじれよし！



【第1回目】 令和4年7月25日(月)13:30～14:30

(1) 消火訓練

岩手県立江刺病院防災管理要綱に基づき、火災発生時の消火活動を迅速に行うための実地訓練として、当院屋上にて職員21名の参加により行いました。

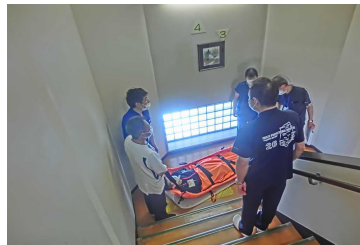
火災発生現場へ急行したホースの先端を持つ放水係からの合図を受け、ホースのねじれを修正する中間の係が確認後、消火栓の元栓を操作する係が「元栓開きます！」などと、大きな声で手順を確認し合いながら職員3名1組となり訓練を実施しました。

元栓
開きます！

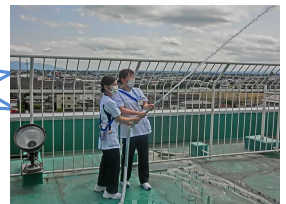


(2) 避難訓練

階段等でエアーストレッチャーを使用し、参加者で交代しながら搬送訓練を実施しました。



消火！



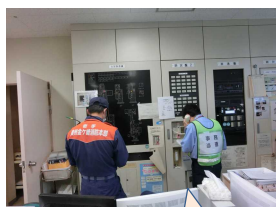
【第2回目】 令和4年10月6日(木)13:30～14:10

総合訓練として夜間想定で通報・初期消火・避難誘導訓練を実施しました。

火災発生



自動通報対応



患者搬送



初期消火



防火扉閉鎖

講評



消火器の操作訓練は、突然の降雨のため実施できませんでしたが、消防署職員からあらためて使用方法の説明を受けました。

指摘内容は訓練参加職員も毎回変わることもあり、前回と同じ内容もありましたが、新たな指摘もありましたので全職員で情報共有を図っていく必要性といざという時に迷わず迅速な行動がとれるよう、日頃から防火意識を高めておくことが大切であると感じました。

【初めて参加した新採用看護師の感想】

初めて消防訓練に参加しとても緊張しましたが、災害発生時混乱している中で、看護師は患者さんの命を守るために迅速な判断が求められるため、訓練での反省を活かし、日常から災害を想定して行動することに努めています。

永年勤続表彰



岩手県職員表彰者（25年勤続）

主任看護師 豊島 知美 さん

看護師 千葉 麻貴 さん

医療局職員表彰者（20年勤続）

主査管理栄養士 齋藤 亜矢子 さん



令和4年度岩手県職員表彰式が11月7日（月）に岩手県民会館で、医療局職員表彰式が11月1日（火）にホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにて執り行われました。

当院からは上記の方々が表彰を受けられました。COVID-19対策のため祝賀会は開催できませんでしたが、皆さんと祝福したいと思います。

このことに伴い、11月17日（木）14時から大会議室においてセレモニーを開催しました。

